

氏名	難 波 孝 太 郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 948 号
学位授与の日付	昭和53年 3 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	創外固定の強度に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 寺 本 滋 教授 田 中 早 苗 教授 西 本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

現在、創外固定使用時いずれの方法を採用するかは術者の経験によっているのが現状であり、著者は各種創外固定法の固定力を比較検討する必要性を感じ、Judet, AO, Hoffmann, レジン法について垂直一曲げ試験を行い、1方向、2方向、3方向の固定力について検討した。

1方向固定では Judet 法が最もつよく、レジン法が最も弱かった。2方向固定は大差はなかった。3方向固定は最強であり、AOとHoffmann 法の間にはほとんど差はなかった。

いずれの方法にしろ、ピンの径が最も影響し、ピンのネジ付のものがよりつよく、スクリューはネジのないピンより強力で創外副子の影響はすくない。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は骨折に対する治療法としての創外固定の強度について力学的検索を加えた研究であるが種々固定法の固定力について重要な知見を得たものであって、この分野における価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。